

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：32658

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H03086

研究課題名（和文）農業法人の多角化戦略が地域に与える経済的・社会的影響の定量分析評価手法の開発

研究課題名（英文）Development of a quantitative analysis and evaluation method for the economic and social impact of the agricultural corporation's diversification strategy on the region

研究代表者

佐藤 和憲（SATO, KAZUNORI）

東京農業大学・国際食料情報学部・教授

研究者番号：80355601

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,700,000円

研究成果の概要（和文）：全国の農業法人に対するアンケートデータを統計分析し、農業法人の多角化は垂直的統合を主体としており、経営者は自社の競争力の弱さを認識したうえで、自社の強みを発揮できる新たな事業部門を見出すことにより垂直的統合を実行していることを明らかにした。また、新型コロナウイルス感染症の農業法人への影響、要因および対策の関係を分析し、顧客、市場の変化に対して、新市場開拓または新商品開発、および両者を兼ねた多角化が重要なことを明らかにした。さらに、農泊の宿泊予約サイト利用者のデータを分析し、丁寧な接客による滞在中の快適性の保持、および体験や食事などによる楽しさの提供が総合満足度を上げることが明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、従来農業経営学分野で不十分であった農業法人の経営戦略と経営者の経営環境および経営資源に対する認識との関係を大量データに基づいて典型的に捉えることができたことである。この成果を応用することにより、自治体などが事前に農業法人・経営者の経営環境と経営資源に対する認識を把握することにより、誘致に必要な条件整備を効率的に進め、地域外からの農業法人の誘致を促進し地域農業、地域経済の活性化に寄与することができる。また、新型コロナウイルス感染症による農業法人への影響、要因、および対策の関係について明らかにし、今後、パンデミックが発生した場合の対策の策定に寄与できる。

研究成果の概要（英文）：Statistical analysis of questionnaire data (1356 companies) for agricultural corporations nationwide revealed the following points. The diversification of agricultural corporations is centered on vertical integration. It was revealed that managers are vertically integrating their businesses by recognizing their own competitive weaknesses and finding new business divisions that can leverage their strengths. In addition, we analyzed the impact of the COVID-19 on agricultural corporations, the relationship between factors and countermeasures, and identified the importance of new market development, new product development, and diversification that combines both in response to changes in customers and markets. An analysis of data on users of farm stay reservation sites revealed that maintaining comfort during a stay through courteous customer service and providing enjoyment through experiences, meals, etc. increases overall satisfaction.

研究分野：農業経営学

キーワード：農業法人 経営戦略 多角化 農村ツーリズム 新型コロナウイルス感染症

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)農業法人は本拠地の農場だけでなく、全国各地で川上への委託生産や合併事業および川下への加工・販売といった垂直的多角化、また交流型ビジネスや農業コンサルティングなどの水平的多角化といった多面的な経営戦略によって事業展開を行っている。

(2)このため事業展開地域の地域農業へ与える影響は多面的かつ大きくなっており、その把握は地域農業の維持・再生にとって重要な課題となっている。

2. 研究の目的

(1)農業法人の経営戦略、特に垂直的多角化と水平的多角化に注目し、その特徴を典型的に把握したうえで、戦略に基づいた事業展開が地域農業に与える経済的影響を定量的にとらえる方法を開発する。

(2)農業法人と地域のステークホルダーとの関係を把握する方法を策定する。これらによって、進出前に農業法人の経営戦略を把握することにより、誘致による経済的效果や社会的効果を予測できるように、農業法人の誘致を促進し地域農業、引いては地域経済の活性化に寄与することができる。

3. 研究の方法

(1)農業法人が直面する経営環境の解明には、農業法人の生産する業務用農産物に対する食品メーカーや集荷業者の調達行動についてアンケート調査データの産業財マーケティングの視点からの分析、また消費者の都市農村交流などに対する購買行動については価値共創の視点も取り入れて分析しその特徴を把握する。農業法人が生産する農産物(コメ、野菜)やサービス(都市交流)の競争構造を、ポーターの競争圧力の視点から統計データ分析と業界団体への面接調査により把握する。

(2)農業法人の垂直的多角化戦略の解明については、(3)と共同して農業法人について、アンケート調査を実施し、拡張された成長ベクトル概念を応用して経営戦略の特徴を典型的に把握する。で把握された類型のうち委託生産や合併事業および川下への加工・販売など垂直的多角化戦略をとっている農業法人の組織構造、組織文化などの企業行動の特徴を把握し、これらと(1)で得られる品目・部門別の経営環境(顧客の調達行動と競争構造)を比較検討することにより、経営戦略を経営環境 経営戦略 企業行動という枠組みで捉える。

(3)農業法人の水平的多角化戦略の解明については、(2)と共同して、農業法人について、アンケート調査を実施し、拡張された成長ベクトル概念を応用して経営戦略の特徴を典型的に把握する。で把握された類型のうち交流型ビジネスや農業コンサルタントなど水平的多角化戦略をとっている農業法人の組織構造、組織文化などの企業行動の特徴を把握し、これらと(1)で得られる品目・部門別の経営環境(顧客の調達行動と競争構造)を比較検討することにより、経営戦略を経営環境 経営戦略 企業行動という枠組で捉える。

(4)農業法人が地域農業に与える経済的影響の把握手法の開発については、農業法人が事業展開している地域と非展開地域について、農林業センサス、市町村民経済計算等の時系列データを用いたDID分析などによって、農業法人の事業展開の有無や戦略のタイプによる地域経済への影響を明らかにする手法を開発する。(2)、(3)で調査対象とする市町村について、各種統計および市町村の行政資料等のデータから地域産業連関表を作成することによって経済効果を定量的に明らかにする手法を開発し、各種分析により投資や産出額変動による地域経済への影響をシミュレーションする。

(5)農業法人とステークホルダーの関係解明については、農業法人の事業展開地域における委託生産農家との取引関係、一般農家との農地貸借、雇用、生産委託などの取引の種類および形態について、法人および関係農家の面接調査を通じて明らかにする。自治体、農協、その他の農業法人、民間企業などとの関係についてもアンケート調査および面接調査によって、農業法人の事業展開への「関心度」と「影響力」という2軸からステークホルダーとの関係を明らかにする方法を策定し、これを事業展開地域に適用して(2)、(3)から得られた農業法人の経営戦略、企業行動と比較して適合性を検討する。

4. 研究成果

(1)消費者のサービス購買行動から見た経営環境

サービスについては、ISO23592:2021において、顧客満足より優れた「顧客ディライト」をもたらす「エクセレント・サービス」が位置付けられた。サービスとしての農村ツーリズムの評価を、消費者との価値共創として捉え、エクセレント・サービスの提供が可能かを検討した。サービスを評価する尺度としてSERVPERFを用い、図1のとおり、サービス品質が顧客満足(Customer satisfaction)や価値共創(Co-creation)につながるメカニズム、価値共創が顧客ディライト(Customer delight)につながるメカニズムを、モデル化し、構造方程式モデリングにより推定

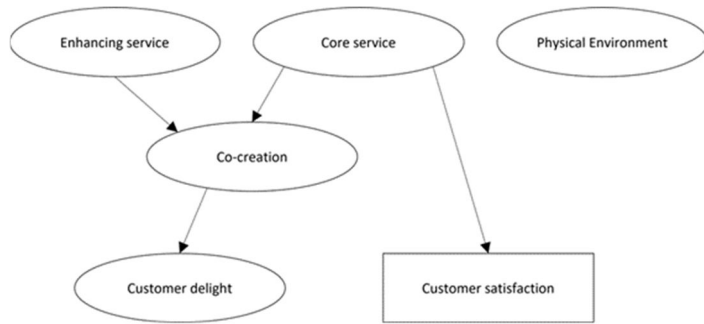


図1 消費者行動の分析モデル

した。分析の結果、中核サービス（Core service）と強化サービス（Enhanced service）が導き出された。エクセレント・サービスに関連する顧客ディライトは、強化サービスの影響を強く受けていること、また、顧客満足よりも顧客ディライトがより優れたサービスとしての評価を得られることが明らかとなった。

(2) 多角化類型と要因

全国の農業法人に対するアンケート調査データ(回収 1,356 社)を多角化類型別に分類した結果によれば、農業法人の構成比率は、垂直的統合が 44.5%で最も多く、その内訳は前方統合・加工関連 26.1%、前方統合・販売関連 9.2%、後方統合 9.2%である。垂直的統合に次いで、集中的多角化が 29.4%、集成的多角化が 13.1%、水平的多角化が 6.5%の順となった(図2)。このうち垂直的統合の比率は先行研究と単純な比較はできないが、少なくとも垂直的統合の比率は上昇していないと推定される。また、集成的多角化が一定の比率を占めていることは、農業においても既存事業と関連のない事業への多角化が一定の地位を占めていると言える。

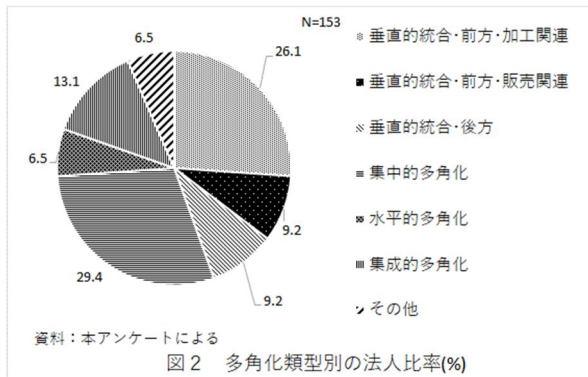


図2 多角化類型別の法人比率(%)

表1 売上高1位部門と多角化類型(5類型)

部門	垂直的統合	集中的多角化	水平的多角化	集成的多角化	その他	度数
稲作	-1.93	2.04	-0.15	0.57	-0.37	38
施設野菜	-1.18	-0.17	2.50	0.71	-1.12	16
養豚	0.02	-0.67	-1.05	0.52	1.62	11
露地野菜	0.32	-0.50	2.52	-1.27	-0.86	10
その他の事業	-0.34	0.24	-1.00	-0.30	1.78	10
露地果樹	2.03	-1.10	-0.94	-0.18	-0.82	9
雑物	0.66	-0.77	-0.83	0.10	0.85	7
その他畜産	1.43	-1.64	-0.83	1.25	-0.72	7
採卵鶏	0.68	-1.38	2.57	-0.88	-0.60	5
肉用牛肥育	0.20	1.06	-0.62	-0.79	-0.54	4
肉用牛一貫	2.24	-1.23	-0.62	-0.79	-0.54	4
その他キノコ	-0.82	1.06	-0.62	-0.79	1.51	4
度数	68	44	10	21	10	153

資料：本アンケートによる
 注1：1位部門により多角化類型(5類型)に統計的な有意差(Fisher-Freeman-Halton正確確率検定)はなかった
 注2：セルの数値は調整済み標準化残差の値である
 注3：調整済み標準化残差が1.96以上には背景をブルーにした
 注4：度数が4以上の部門のみ掲載した

売上高1位部門により多角化類型の比率には統計的な有意差はないが、いくつかの部門では特定の多角化類型の比率が高くなっている(表1)。稲作は集中的多角化、野菜は水平的多角化、採卵鶏は水平的多角化、肉用牛一貫は垂直的統合の比率が高い。こうした傾向は、稲作では

機械・施設や労働力の有効利用のために技術的に転作、裏作、作業受託が選択されやすく、野菜では顧客から新品目が要請されることが多く、肉用牛一貫では売上安定には安定した幼畜調達が必要であるためと考えられる。

多角化類型と経営者が認識している多角化の要因との関係については、類型により関係の強い要因は異なっている。垂直的統合は、「自社の強みが発揮できる新たな事業部門の出現」という資源と環境の両者を含意する要因と、水平的多角化は「需要成長が見込める新たな品目・部門の出現」という経営環境と関係する要因との関係が強い。これに対して、集中的多角化および集

表2 多角化の要因と多角化類型のロジスティクス回帰の結果

独立変数	垂直的統合(計)			
	係数	標準誤差	有意確率	Exp(B)
X1 既存の事業部門の需要停滞・減少(Q8-1)	-1.389 **	0.545	0.011	0.249
X2 既存の事業部門の収量・品質の低下(Q8-2)	0.183	1.028	0.859	1.201
X3 需要成長が見込める新たな品目・部門の出現(Q8-3)	-0.230	0.442	0.602	0.794
X4 既存の事業部門における自社の競争力の弱さ(Q8-4)	1.626 *	0.922	0.078	5.085
X5 未利用の資源(農地、施設、機械、その他)の活用(Q8-5)	-0.670	0.547	0.903	0.935
X6 人材の不足・活用(Q8-8)	-1.253 *	0.706	0.076	0.286
X7 自社の強みが発揮できる新たな事業部門の出現(Q8-7)	1.963 ****	0.442	<0.001	7.117
X8 取引先からの要請(Q8-8)	-1.553 ****	0.562	0.006	0.212
X9 JA・普及センターなどからの指導・助言(Q8-9)	-1.344 *	0.789	0.088	0.261
X10 補助金などの制度変更(Q8-10)	0.265	0.796	0.739	1.303
X11 その他(Q8-11)	-0.419	0.702	0.550	0.658
定数	-0.250	0.495	0.613	0.779
カイ二乗値		49.682		
Nagelkerke R2		0.371		
Hosmer-Lemeshow test		0.621		
n		153		

資料：本アンケート調査による
 注1:従属変数は前方統合・加工関連、前方統合・販売関連、後方統合の何れかに該当が1、該当していないが0
 注2:独立変数はX1~X11で、それぞれ該当する1、該当しない0
 注3:係数の右側の*は10%、**は5%、***は1%、****は0.1%水準で有意

成的多角化は「自社の強みが発揮できる新たな事業部門の出現」という経営資源、経営環境の両者に関係する要因との関係は弱い。

垂直的統合と経営者の認識している要因の因果関係は、表2に示すロジスティクス回帰分析の結果から、次のように整理できる。垂直的統合は「既存の事業部門の需要停滞・減少」、「取引先からの要請」、「JA・普及センターなどからの指導・助言」という経

表3 コロナ禍により農業法人が受けた影響

区分	項目	比率(%)
悪影響	顧客の減少	13.4
	客層・客筋の変化	8.3
	売上の減少	45.4
悪影響	風評被害	1.0
	従業員の休職・退職	5.5
	資材コストの上昇	30.6
好影響	生産減少	8.5
	顧客の増加	4.7
	売上の増加	8.0
好影響	評判向上	1.4
	従業員の新規就業	5.8
	資材コストの低下	0.2
その他の影響	生産増加	3.0
	その他の影響	5.3
影響なし		22.5
N		1,356

資料：本アンケート調査により筆者が作成

注：複数回答可

このような悪影響に対して農業法人は、「公的支援の活用」を受け事業存続を図るだけではなく、「新たな需要・市場開拓の強化」、「新商品開発の強化」および「リモートワークの推進」、「事業活動のオンライン化」などの対策に取り組むことによって事業の立て直しを図っている(表5)。

好影響は少ないものの、「売上の増加」、「顧客の増加」、「従業員の新規就業」があげられており(表6)、「新商品開発の強化」やネットワーク対応などの対策との関係が窺われる。

以上から、消費者や事業者の行動を大幅に制約するコロナ禍のようなパンデミックは、消費者の買い控えと、これに伴う顧客の事業活動の低下といった悪要因を引き起こし、農業法人自身の事業活動の自粛とも相まって、顧客の減少、売上の減少という悪影響を引き起こしていると理解できよう。これらの悪影響のうち、売上の減少に至れば公的支援に頼らざるを得ないが、客層・客筋の変化

表4 主な悪影響と悪要因のロジスティック回帰モデル計測結果

説明変数	売上の減少			資材コストの上昇			顧客の減少		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
X1: 自社の事業活動を自粛	1.329 ***	0.256	3.779	0.367	0.258	1.444	1.429 ***	0.234	4.175
X2: 顧客の事業活動が低下	2.470 ***	0.163	11.821	0.120	0.167	1.127	1.693 ***	0.178	5.435
X3: 消費者の買い控え	2.306 ***	0.172	10.032	-0.472 *	0.183	0.624	0.645 ***	0.188	1.906
X4: 資材価格の高騰	-0.049	0.160	0.952	3.182 ***	0.166	24.095	0.207	0.196	1.231
X5: 物流の支障	-0.052	0.270	0.950	0.962 ***	0.276	2.617	-0.329	0.359	0.720
X6: 販売・営業に支障	1.383 ***	0.210	3.986	0.239	0.214	1.269	0.698 ***	0.210	2.010
X7: その他	0.842 ***	0.248	2.321	-0.506	0.344	0.603	-0.470	0.533	0.625
定数項	-1.831 ***	0.124	0.160	-1.899 ***	0.125	0.150	-3.136 ***	0.176	0.043
サンプル数(n)	1,356			1,356			1,356		
カイ二乗値	550.874			538.693			181.606		
Nagelkerke R2	0.447			0.463			0.230		
Hosmer-Lemeshow test	<.001			0.050			0.033		

資料：本アンケート調査より筆者が作成

注：***は0.1%、**は1%、*は5%で有意なことを示す

表5 主な対策と悪影響のロジスティック回帰分析モデル計測結果

説明変数	公的支援の活用			新たな需要・市場の開拓の強化			固定費の削減		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
X1: 顧客の減少	0.062	0.180	1.064	0.753 ***	0.180	2.122	0.018	0.197	1.018
X2: 客層・客筋の変化	0.357	0.218	1.430	1.558 ***	0.214	4.750	0.238	0.239	1.269
X4: 売上の減少	0.727 ***	0.129	2.068	0.777 ***	0.143	2.175	0.738 ***	0.144	2.092
X4: 風評被害	-0.878	0.782	0.415	0.166	0.650	1.181	0.319	0.627	1.375
X5: 従業員の退職・休職	0.214	0.264	1.238	-0.258	0.308	0.773	0.153	0.279	1.165
X6: 資材コストの上昇	0.053	0.136	1.055	-0.060	0.150	0.942	0.797 ***	0.143	2.219
X7: 生産減少	0.169	0.216	1.184	0.226	0.232	1.254	0.158	0.232	1.172
X8: その他	-0.104	0.290	0.901	0.404	0.293	1.497	0.607 *	0.282	1.835
定数項	-1.411 ***	0.105	0.244	-1.897 ***	0.120	0.150	-2.084 ***	0.125	0.124
サンプル数(n)	1,356			1,356			1,356		
カイ二乗値	44.047			117.812			67.803		
Nagelkerke R2	0.046			0.126			0.076		
Hosmer-Lemeshow test	0.382			0.721			0.330		

資料：本アンケート調査より筆者が作成

注：***は0.1%、**は1%、*は5%で有意なことを示す

表6 好影響と対策のロジスティック回帰モデル計測結果

説明変数	売上の増加			従業員の新規就業			顧客の増加		
	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比	係数	標準誤差	オッズ比
X1: リモートワーク(テレワーク)の推進	1.194 ***	0.303	3.302	0.918 **	0.352	2.504	0.461	0.449	1.586
X2: 営業、会議、手続きなど事業活動のオンライン化	0.806 **	0.266	2.239	0.555	0.307	1.742	0.274	0.372	1.315
X3: 新商品開発の強化	0.979 ***	0.282	2.662	0.012	0.353	1.012	0.879 **	0.334	2.408
X4: 既存商品の見直し、改良	0.493	0.261	1.637	0.339	0.294	1.404	0.373	0.317	1.451
X5: 新たな需要・市場の開拓の強化(ネット販売など)	-0.411	0.268	0.663	0.409	0.268	1.505	0.65 *	0.296	1.916
X6: 公的支援の活用	-0.523 *	0.263	0.593	0.077	0.260	1.080	-0.292	0.321	0.747
X7: 採算性の悪い既存事業の休止・廃業	-0.239	0.424	0.787	-0.146	0.456	0.864	-0.189	0.461	1.208
X8: 従業員数の削減	-0.316	0.630	0.729	-1.266	1.032	0.282	0.629	0.575	1.876
X9: 固定費の削減	0.132	0.258	1.142	0.104	0.287	1.109	-0.439	0.371	0.644
X10: 積極的な資金調達	0.398	0.278	1.489	0.691 *	0.280	1.995	-0.381	0.413	0.683
X11: その他	-0.012	0.421	0.989	-0.488	0.610	0.614	0.414	0.464	1.513
定数	-2.833 ***	0.17	0.059	-3.245 ***	0.197	0.039	-3.421 ***	0.219	0.033
サンプル数(n)	1,356			1,356			1,356		
カイ二乗値	56.974			31.634			29.763		
Nagelkerke R2	0.096			0.063			0.069		
Hosmer-Lemeshow test	0.467			0.196			0.989		

資料：本アンケート調査より筆者が作成

注：***は0.1%、**は1%、*は5%で有意なことを示す

や顧客の減少には、新規需要・市場の開拓の強化や新商品開発の強化によって対応し、これらの対策が売り上げの増加につながるといった一定の効果を上げているものと推定される。

したがって、農業法人の経営戦略においても、コロナ禍のような環境激変による既存事業領域の顧客、市場の変化に対して、迅速な新市場開拓または新商品開発、あるいは両者を含んだ多角化によって対応することが肝要であり、そのための組織体制とノウハウを平時から整えておく必要がある。また、このような事態において行政機関には、短期的には事業の継続、回復を支援するための給付金の支給や資金繰り支援などが必要とされるが、中長期的には農業法人が経営戦略の転換に必要とするノウハウ、人材、投資資金などの側面での支援も望まれる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 27件／うち国際共著 7件／うちオープンアクセス 22件）

1. 著者名 Issa Kachenje and Yasuo Ohe	4. 巻 4(Special Issue)
2. 論文標題 Exploring the Viability of Utilizing Agricultural and Rural Areas for Tourism: A Comparative Analysis of Farming Between Conventional and Agritourism Farms during the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Academics Stand Against Poverty	6. 最初と最後の頁 58-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5281/zenodo.11080927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤和憲・大江靖雄・半杭真一・渋谷往男	4. 巻 37
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行による農業法人へのインパクトと経営対応	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 食農と環境	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hanna D. Miranda-Quibot and Yasuo Ohe	4. 巻 6(2)
2. 論文標題 The Recognition, Measurement and Disclosure of Biological Assets of Selected Agritourism Farms in Region IV-A, Philippines	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Economics, Finance and Accounting Studies	6. 最初と最後の頁 1-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32996/jefas.2024.6.2.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Rival Valchin, Tomohiro Uchiyama, Katsumori Hatanaka, Yasuo Ohe, Absalon Pierre, and Benedique Paul	4. 巻 14(2)
2. 論文標題 Assessing the Acceptability and the Feasibility of an Agricultural Package of Technologies for Risk Management in Southern Haiti	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental and Rural Development	6. 最初と最後の頁 122-231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 片山達貴・大江靖雄	4. 巻 64
2. 論文標題 農家レストラン名称の東西比較分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本観光学会誌	6. 最初と最後の頁 24-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51059/nihonkanko.64.0_24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀越聡太・大江靖雄	4. 巻 64
2. 論文標題 コンテンツツーリズムの地域社会への心理的・経済的効果 アニメ作品を舞台にした埼玉県秩父市を対象として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本観光学会誌	6. 最初と最後の頁 33-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51059/nihonkanko.64.0_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 齊藤孝太郎・大江靖雄	4. 巻 61(2)
2. 論文標題 コロナ禍による酒蔵の経営対応と影響評価	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 91-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11300/fmsj.61.2_91	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渋谷往男	4. 巻 89(3)
2. 論文標題 なぜ企業は農業に参入するのですか? - 利益だけではない企業のねらい -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 147-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuo Ohe	4. 巻 13(6)
2. 論文標題 Exploring New Opportunities for Agritourism in the Post-COVID-19 Era	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Agriculture	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/agriculture13061181	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮川 薫・大江靖雄	4. 巻 63
2. 論文標題 農泊におけるOTA利用者の評価分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本観光学会誌	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.51059/nihonkanko.63.0_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大江靖雄・吉田真悟	4. 巻 60(3)
2. 論文標題 農業経営の多角化とアントレプレナーシップ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 51-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11300/fmsj.60.3_51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yasuo Ohe	4. 巻 5
2. 論文標題 Evidence-supported Rural Community-based Tourism and Social Impact	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Impact	6. 最初と最後の頁 40-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21820/23987073.2022.5.40	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Stephen Pratt, Alminda Magbalot-Fernandez, and Yasuo Ohe	4. 巻 24(4)
2. 論文標題 Motivations and constraints of developing agritourism under the challenges of climate change: The case of Samoa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Tourism Research	6. 最初と最後の頁 610-622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jtr.2525	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大江靖雄	4. 巻 10(9)
2. 論文標題 生活様式の変化を好機とらえ農村活性化を目指す - マイクロ・ツーリズムとワーケーションへの意識調査から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JATAFF ジャーナル	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石田貴士・大江靖雄	4. 巻 94(1)
2. 論文標題 乳業メーカーによる食育活動の意識と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農業経済研究	6. 最初と最後の頁 31-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11472/nokei.94.31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岡田将利・大江靖雄	4. 巻 59
2. 論文標題 農林水産業を対象としたクラウドファンディングの達成要因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11300/fmsj.59.4_45	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Stephen Pratt, Alminda Magbalot-Fernandez, and Yasuo Ohe	4. 巻 24(4)
2. 論文標題 Motivations and constraints of developing agritourism under the challenges of climate change: The case of Samoa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Tourism Research	6. 最初と最後の頁 610-622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jtr.2525	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yasuo Ohe	4. 巻 28
2. 論文標題 Investigating farmer's identity and efficiency of tourism-oriented farm diversification	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tourism Economics	6. 最初と最後の頁 535-558
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1354816620980185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大江靖雄	4. 巻 20
2. 論文標題 コロナ禍がもたらした新たな日常における農村観光の展開方向をさぐる マイクロ・ツーリズムとワーケーションへの意識調査から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 総合観光研究	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50839/sogokanko.20.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田中愛・大江靖雄	4. 巻 59
2. 論文標題 宿泊予約サイト (OTA) における農泊価格の決定要因	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 19-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11300/fmsj.59.2_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noriko Akita and Yasuo Ohe	4. 巻 12
2. 論文標題 Sustainable Forest Management Evaluation Using Carbon Credits: From Production to Environmental Forests	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Forest	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/f12081016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋知笑・大江靖雄	4. 巻 57
2. 論文標題 フードバンク運営者の満足度決定要因	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農林業問題研究	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7310/arfe.57.69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井詩央里・大江靖雄	4. 巻 59
2. 論文標題 子ども食堂運営者の意識とその満足度 - 千葉県を対象にして -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤和憲	4. 巻 29
2. 論文標題 産地における青果物の加工・保管・輸送対応の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農業市場研究	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18921/amsj.29.3_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Richard T.R. Qiu, Doris Chenguang Wu, Vincent Dropsy, Sylvain Petit, Stephen Prattf, Yasuo Ohe	4. 巻 88
2. 論文標題 Visitor arrivals forecasts amid COVID-19: A perspective from the Asia and Pacific team	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Annals of Tourism Research	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.annals.2021.103155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Miho Fukui and Yasuo Ohe	4. 巻 26
2. 論文標題 Assessing the role of social media in tourism recovery in tsunami-hit coastal areas in Tohoku, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tourism Economics	6. 最初と最後の頁 776-791
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1354816618825014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shohei Kurata and Yasuo Ohe	4. 巻 12
2. 論文標題 Competitive Structure of Accommodations in a Traditional Japanese Hot Springs Tourism Area	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su12073062	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriko Akita, Yasuo Ohe, Shoko Araki, Makoto Yokohari, Toru Terada and Jay Bolthouse	4. 巻 9
2. 論文標題 Managing Conflicts with Local Communities over the Introduction of Renewable Energy: The Solar-Rush Experience in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Land	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/land9090290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 18件）

1. 発表者名 橋本仰未・大江靖雄
2. 発表標題 コロナ禍の「道の駅」入込客数への影響と回復要因ー岐阜県を対象としてー
3. 学会等名 ワークショップ「観光経済学」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Issa Abrahaman Kachenje and Yasuo Ohe
2. 発表標題 Assessing Locals' Perceptions on the Environmental, Economic, and Socio-Cultural Impacts of Agritourism Versus Conventional Farming in Tanzania
3. 学会等名 The 15th International Conference on Environmental and Rural Development, Khon Kaen (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Hanna D. Miranda-Quibot and Yasuo Ohe
2. 発表標題 Factors Influencing the Accounting for Biological Assets: The Case of Selected Agritourism Farms in the Philippines
3. 学会等名 The 15th International Conference on Environmental and Rural Development, Khon Kaen (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yasuo Ohe and Adriano Ciani
2. 発表標題 Is Agritourism Development Competitive or Complementary to the Local Tourism Sector Evidence from Umbria, Italy
3. 学会等名 The 11th ASAE International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 EVALUATING TOURISM EFFICIENCY IN JAPAN: Ryokan and educational dairy farms
3. 学会等名 Master2 Seminar at University of Perpignan Via Domitia (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小松大貴・大江靖雄
2. 発表標題 長野県スキー客数の決定要因分析-DPDモデルを適用して-
3. 学会等名 2022年度観光経済研究会第2回研究報告会・日本観光学会中部支部大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 堀越聡太・大江靖雄
2. 発表標題 観光地視点のコンテンツツーリズムの効果 -埼玉県秩父市を参考にして-
3. 学会等名 2022年度日本観光学会関東支部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平山貴也・大江靖雄
2. 発表標題 ポラバイト旅行プラットフォームにおける賃金決定要因
3. 学会等名 2022年度日本観光学会関東支部会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuo Ohe and Adriano Ciani
2. 発表標題 Investigating the Process of Agritourism Development in Umbria, Italy: In Connection with Local Tourism Sector
3. 学会等名 721th AIEST Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 History to Present: Agritourism in Japan
3. 学会等名 Agritourism in East Asian Countries, Asia Week 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroki Komatsu and Yasuo Ohe
2. 発表標題 Determinant Factors of Incoming Skiers in Nagano, Japan: A Dynamic Panel Data Model Approach from Supply-side Perspective
3. 学会等名 QATEM Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroki Komatsu and Yasuo Ohe
2. 発表標題 Investigating Pull Factors of Skiers in Nagano, Japan: An Application of Dynamic Panel Data Model
3. 学会等名 APTA 2023 Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Issa Abrahaman Kachenjie and Yasuo Ohe
2. 発表標題 Assessing the Economic Vulnerability of Conventional Farmers Verus Agritourism farmers in Tanzania: A Farm Efficiency Comparison During The Pandemic
3. 学会等名 APTA 2023 Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Mei Matsumoto, Kazunori Sato, and Nina N. Shimoguchi
2. 発表標題 Japanese Organic Farmers' Attitudes and Behavior Utilizing Modified Grounded Theory Approach
3. 学会等名 ISSAAS International Scientific and General Meeting 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hanna D. Miranda-Quibot and Yasuo Ohe
2. 発表標題 Factors Affecting The Efficiency of Selected Agritourism Farms in The Philippines: Application of Window DEA Model
3. 学会等名 APTA 2023 Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤和憲・大江靖雄・渋谷往男・半杭真一・今井麻子
2. 発表標題 農業法人の多角化戦略の特性と課題
3. 学会等名 令和5年度日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋敬典・大江靖雄
2. 発表標題 コロナ禍における農泊宿泊者数の回復要因
3. 学会等名 令和5年度日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 外池萌乃・大江靖雄
2. 発表標題 農協の経営効率とその要因分析ー総合農協と専門農協を比較してー
3. 学会等名 令和5年度日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Bhatta, K., Ohe, Y., and Tanaka, T.
2. 発表標題 Evaluating Profitability of Rural Restaurants and Owner's Willingness for Business Extension of in Nepal
3. 学会等名 日本観光学会第116回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 平山貴也・大江靖雄
2. 発表標題 ポラバイト・プラットフォームにおける賃金決定要因(Revised)
3. 学会等名 ワークショップ「観光経済学」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 Rural Tourism under The New Normal: New Potentials from A Japanese Perspective
3. 学会等名 10th International Conference on Sustainable Tourism (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大江靖雄
2. 発表標題 コロナ禍における野菜農家のネット直販サイト利用とその課題 太平洋沿岸東北4県・関東2県を対象として
3. 学会等名 園芸植物育種研究所第34回園芸技術講演会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田大夢・大江靖雄
2. 発表標題 コロナ禍におけるネット直販農家の満足度とその要因 太平洋沿岸東北4県・関東2県を対象として
3. 学会等名 第72回地域農林経済学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 On the New Potentials of Rural Tourism under the New Normal: Micro-tourism and Workcation
3. 学会等名 APTA Conference 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 片山達貴・大江靖雄
2. 発表標題 農家レストラン名称の東西比較分析
3. 学会等名 第72回地域農林経済学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齊藤孝太郎・大江靖雄
2. 発表標題 コロナ禍による酒蔵の経営対応と影響評価
3. 学会等名 令和4年度日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 多賀文吾・大江靖雄
2. 発表標題 フェアトレード製品の購買行動とその要因
3. 学会等名 令和4年度日本農業経営学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 Investigating Opportunities for Rural Tourism under the New Normal
3. 学会等名 71th AIEST Conference (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuo Ohe and Adriano Ciani
2. 発表標題 Evaluating Agritourism Development in Connection with the Local Tourism Sector in Umbria, Italy: Competition or Complement?
3. 学会等名 The 8th Conference of the International Association for Tourism Economics (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Qibin Liang, Yasuo Ohe, and Nicolas Peypoch
2. 発表標題 Efficiency of Japanese accommodation firms with heterogeneity and input complementarities
3. 学会等名 The 8th Conference of the International Association for Tourism Economics (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大江靖雄
2. 発表標題 持続可能なミルクバリューチェーンと学校給食
3. 学会等名 ラウンドテーブル・シンポジウム「持続可能な社会の実現に向けて酪農乳業はどのような貢献ができるのか」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤和憲・大江靖雄・今井麻子・半杭真一・渋谷往男
2. 発表標題 新型コロナ肺炎流行による農業法人への影響、要因、対策 - アンケート調査による分析 -
3. 学会等名 2022年度日本フードシステム学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮川薫・大江靖雄
2. 発表標題 農泊におけるOTA利用者の評価分析
3. 学会等名 日本観光学会中部支部大会・観光経済経営研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Richard T. R. Qiu, Doris C. Wu, Vincent Dropsy, Sylvain Petit, Stephen Pratt, Yasuo Ohe
2. 発表標題 Visitor Arrival Forecasts amid COVID-19: A perspective from the Asia and Pacific team
3. 学会等名 ATE Webinar Tourism Forecasting Competition amid COVID-19 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 Evaluating Tourism Efficiency in JAPAN: Ryokan and Educational Dairy Farms
3. 学会等名 Seminar at University of Perpignan Via Domitia (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大江靖雄
2. 発表標題 イタリア・アグリツーリズムの普及過程とオーバーシュート効果 - ウンブリア州を対象として -
3. 学会等名 日本観光学会第114回全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 Educational Tourism in Agriculture: Potential and Reciprocal Benefits
3. 学会等名 International Webinar Educational Mobility and Tourism (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤和憲
2. 発表標題 産地における青果物の加工・保管・輸送対応の現状と課題
3. 学会等名 日本農業市場学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yasuo Ohe
2. 発表標題 Exploring New Trend of Rural Tourism: Insights and Implications
3. 学会等名 The 2020 International Seminar 'The City of New Civilization, Saemangeum (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 大江靖雄・山田崇裕・木原高治	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京農業大学出版会	5. 総ページ数 78
3. 書名 『実践・アグリビジネス1 (編著 井形雅代・Saville Ramadhona)』 「高品質コーヒーの市場創造によるニッチマーケットの創造者」	

1. 著者名 内山智裕・佐藤和憲・井形雅代	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東京農業大学出版会	5. 総ページ数 78
3. 書名 『実践・アグリビジネス1(編著 井形雅代・Saville Ramadhona)』 「洋らんを基軸とした戦略的農業経営の展開と」	

1. 著者名 大江靖雄	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 309
3. 書名 持続可能な酪農 - SDGs への貢献 - (木村純子・中村丁次編著)	

1. 著者名 佐藤和憲	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑波書房	5. 総ページ数 22
3. 書名 『講座これからの食料・農業市場』第3巻「食料・農産物の市場と流通」第12章「野菜の加工・業務需要に対応した産地中間業者の展開 - ビジネスモデルの視点から - 」	

1. 著者名 Yasuo Ohe	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Wessex Institute	5. 総ページ数 150
3. 書名 Sustainable Tourism X	

1. 著者名 Miriam Scaglione, Yasuo Ohe, and Colin Johnson	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 581
3. 書名 Information and Communication Technologies in Tourism 2021 (W. Worndl, C. Koo and J. L. Stienmetz eds.)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	今井 麻子 (IMAI Asako) (00825242)	東京農業大学・国際食料情報学部・助教 (32658)	
研究分担者	渋谷 往男 (渋谷往男) (SHIBUYA Yukio) (20557079)	東京農業大学・国際食料情報学部・教授 (32658)	
研究分担者	大江 靖雄 (OHE Yasuo) (60302535)	東京農業大学・国際食料情報学部・教授 (32658)	
研究分担者	半杭 真一 (HANGUI Shinichi) (90504043)	東京農業大学・国際食料情報学部・准教授 (32658)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------